

5/2 (日) 19:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

2021 J3 ■順位表 ■第6節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）
（注：*印は消化試合が
数字分少ない）

1	富山	13p	+3	10	7	A●
1*	2 岩手	11p	+5	8	3	
1*	3 岐阜	10p	+6	8	2	---
4	宮崎	10p	+1	7	6	
5	熊本	9p	+1	8	7	
1*	6 鹿児島	8p	+2	7	5	
1*	7 長野	7p	+2	5	3	
2*	8 沼津	7p	+1	3	2	
9	鳥取	7p	-2	6	8	AO
1*	10 藤枝	6p	-1	4	5	AO
11	八戸	6p	-3	5	8	HA
1*	12 福島	5p	-3	5	8	
1*	13 今治	4p	-1	5	6	
14	YS横浜	3p	-3	2	5	
1*	15 讃岐	0p	-9	2	11	HO

次回HomeGame

第5節 vs.アスルクラロ沼津
5/5 (水・祝) 16:00
@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

today's guest : ロアッソ熊本

2020 J3 16勝 6分12敗 勝ち点54: 8位

直近の対決と結果

2020/10/04
J3 - 18節@長良川

熊本 2-3 岐阜

川西翔太, 町田ブライト,
栗飯原尚平 scored.

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	ロアッソ熊本
2021/04/25 J3 - 06節@富山 富山 1-0 岐阜	2021/04/25 J3 - 06節@えがおS 熊本 2-2 八戸
2021/04/21 J3 - 04節@Axis 鳥取 0-1 岐阜	2021/04/11 J3 - 05節@とうスタ 福島 1-2 熊本
2021/03/28 J3 - 03節@長良川 岐阜 4-0 讃岐	2021/04/04 J3 - 04節@えがおS 熊本 1-2 宮崎

●2021年J3ホーム開幕戦は引き分けてしまったが、第2節・アウェイ藤枝戦で今季初勝利を挙げたFC岐阜。3/28(日)第3節・ホーム讃岐戦では、試合序盤からチーム戦術が機能して讃岐を圧倒。FKでの#28三ツ田啓希の先制点、#10川西翔太の2ゴール、そして#7村田透馬のJ初ゴールと得点を量産し、4-0での完封勝利。これで単独首位に立ったFC岐阜だったが、4/2(金)に選手が新型コロナウイルス陽性反応と判定。その後に他の選手も陽性判定を受けたため、4/4(日)第4節・アウェイ鳥取戦と4/11(日)第5節・ホーム沼津戦は開催中止、チームは4/15(木)まで活動休止に。そして2週間の活動休止を経てチームは活動を再開したが、4/4(日)の代替開催となった4/21(水)第4節・アウェイ鳥取戦を、再始動からわずか5日間の練習で戦うこととなった。コンディション調整が十分でない岐阜は、鳥取にボールを支配され続けるが、シュートを撃たせない集中した守備で前半を無失点で終える。後半になると選手を入れ替えて攻撃を活性化させると、#41吉濱遼平のFKで先制点、その後も安定した守備で鳥取を無得点に抑え、1-0で勝利し、今季初の3連勝を達成した。そして中3日で迎えた4/25(日)第6節・アウェイ富山戦。前節よりもさらにコンディションが厳しい岐阜は、富山の陣形を崩す攻撃ができないものの、相手に決定機を与えることもさせずに守る。しかし、わずかに守備が乱れた隙にハンドを採られPKを献上し、今季初の先制点を許す。後半には選手を入れ替えて攻撃に厚みを増すが、それでも富山のゴールを割ることができない。富山の攻撃も防ぎ続けた岐阜だったが、0-1で今季初の敗戦となった。この結果、FC岐阜は暫定3位に。暫定首位・富山との勝ち点差は3、暫定2位・盛岡との勝ち点差は1。岐阜(と盛岡)は富山よりも1試合少ないが、僕らは『1試合未消化だから』と望みを抱き、しかしその1試合・アウェイ鹿児島戦に敗戦してJ3に降格した、2019年シーズンの苦い反省を忘れてはならない。また、他チームでも新型コロナ感染の影響を受けて開催中止になる試合があるように、いつまたチームに試練が訪れるか分からない。しかも、開催中止となった第5節の代替開催は、わずか3日後だ。今は目の前の試合に集中して、今節から再び勝利を重ね、首位の座を奪い返すことを目指すべきだろう。そして何よりも、J3優勝を目指すならば連敗などあってはならない。

さて、今節の対戦相手は、2008年の「J昇格同期」であるロアッソ熊本だ。大木武監督2年目体制となる今季も、若手選手を中心とした攻撃力を持ち味としたチームで、現在の順位は、岐阜と勝ち点差1で暫定5位。つまり今節の試合も、前節・富山戦に引き続き「勝ち点6マッチ」となる重要な試合だ。また、2017年から2年半、岐阜で指揮を執った大木監督を知る選手やスタッフ、そしてサポーターも多い。何より、岐阜の安間貴義監督は、甲府時代の大木監督をコーチとして支え、そして2年後に甲府の監督を継承した間柄だ。そういった意味でも、今節は勝利するしかない大事な一戦だと言えよう。熊本とのJリーグでの通算対戦は、岐阜が8勝7分11敗・31得点35失点、ホーム戦でも2勝4分6敗・9得点15失点と非常に分が悪い。ただし、昨季の対戦に限って言えば、7/19(日)第5節・ホーム戦で1-0、10/4(日)第19節・アウェイ戦で3-2と、「ダブル」を達成している。この勢いを維持して、今節も勝利を収めたい。熊本で最も警戒すべき選手は、やはり#11浅川隼人だろう。昨季は11ゴール、今季も既に3ゴールを挙げているチーム得点王に仕事をさせないことが、まずは岐阜の守備陣に求められる。また、現在2得点の#8上村周平は、前回のアウェイ対戦で岐阜から2点を挙げており、得意相手と感じているだろう。こちらも要注意だ。そして、#15水野泰輔は岐阜に在籍(2013~2016年)していた選手だ。元・岐阜の選手の帰還は嬉しいものだが、活躍させる訳にはいかない。一方の岐阜では、前回の対戦でもゴールを決めている#10川西翔太や#24栗飯原尚平に期待したい。また、#42柏木陽介がホーム戦デビューを果たすのかにも、注目が集まるところだろう。

全国で再び新型コロナ、特に変異株による感染拡大の影響が大きくなり、岐阜県内でも独自の非常事態宣言が出されている。そんな状況下でも僕らサポーターはサッカーが楽しめることに感謝して、コロナ感染防止策に充分注意しつつ、可能な範囲で選手たちの後押しをしよう。タオルやゲーフラなどの掲出(振るのは禁止)でスタジアムを緑に染め、(声は出さずに)拍手や鳴り物の音をスタジアムに響かせよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第3節】 岐阜 4-0 讃岐

●思いもよらぬ……と言ったらウチの選手には失礼だけど、4-0という完勝ぶりに試合後は酔いしれたワケですが。一夜明けて、少し冷静になってみると、「喜ぶのはかまわんが、七掛けくらいで、な？」という思いをしております。先人曰く、「勝って兜の緒を締めよ。」とか。だって、ねえ？ミスが多かったですよね、讃岐。大きな声では言えないけど、一試合で2回もプレゼントしてくれるGKなんて、まず、いないと思います。なお、そんなプレゼントをポストに当てる方が難しいよなあ、とも思いました。次節こそ初ゴールを期待してます>遼平サン。

讃岐の決定機も、2点先取した後の和正の空振りくらいか。敢えて言うなら、和正から重松へのクロスを取平がCKに逃げた場面。どちらも和正が絡んでますね。今は敵だけど、彼の躍動する姿を見られるのは嬉しいです。次の対戦を楽しみにしています。

讃岐を見ていて感じたのは、繋ぎを意識するのはいいけど、ソレをやり切る力量、さらに、勝つためには得点が必要という最低限の……、あ、あれ？なんか、アタマに激痛が。今、何かよぎったような？いや、気のせいだろう。まあ、ボールの支配率なんて飾りですよ。でも、彼らがやろうとしているのは『完成したらおもしろいサッカー』なんでしょうね。ピカスタでの対戦を楽しみに……と思ってたら、監督が退任してしまいました。衝撃的過ぎますよね。早いよ。ともかく、これくらいで浮かれていられるほど甘くないよ、J3は。切り替えましょう。

でも、ね。そうは言っても、アノ場面では、雄叫びとガッツポーズが出るのはしかたないでしょ？そう、4点目のシーン。低い弾道のクロスに左から切れ込む緑のユニが目に入った途端、両手を突き上げ始めてました。出し手と受け手の呼吸はバッチリ、タイミングは絶妙。クロスが入ると動き出しの雰囲気気でゴールを確信しておりました。イヤ、マジで！そして、これがトーマのJ初ゴール！本人はもちろん、中の人達もサポも、誰もが待ち望んだ瞬間でした。寿人が大黒か、って感じだったね。初ゴールがソレかよ。持ち味、違うだろ？ってツツコミたかった。10番から手痛い祝福のチョップを受けながらも笑ってる情景にもジーンとききました。コレを口火にゴールを量産してもらいたいですね。めざせ、J3得点王！

いろいろ思うこともあるし、手放しで喜んではいけないうが、それでも勝ち。勝ち点3は勝ち点3。その結果が首位ですよ、首位！J参入してから初めてじゃないですか？コレ。2位や3位になったことはあるかも？ですが、いや、あえて、調べませんがね。

もちろん、この位置を他に譲らないままゴールするのは難しいと思うけど、途中で順位を下げて最終的にはトップでゴールすることを目指さなければ。それくらいでないとなんて、とても、とても。けっして、上位カテゴリーの更生施設じゃないんだよ？J3は。そこまでヌルくねえ？ということですよ。あ、能力とやる気のある選手が、ウチに骨を埋めるつもりで、お値打ちに加入していただくことには、全く異存も問題もありませんよ？どうぞ、どうぞ。

さて、次はアウェイ・鳥取戦。調子は良さげ。しかも、悠史や大地がいます。試金石ともいえる重要な一戦になりそうです。勝ち点3、待ってます！（ぐん、）

●前節・アウェイ藤枝戦では快勝したが、どうしてもホーム開幕戦の戦いぶりが気になってしまうのは、僕が心配性なのでしょうか（苦笑）。対戦相手が下位・讃岐とはいえ、昨季もホーム戦では引き分けだし、そもそも昨季のホーム勝率は悪かったし……と、試合前は不安材料ばかり心に抱えていたのですが、今はジャンピング土下座してお詫びしたいです（苦笑）。試合は序盤から、讃岐がボールを支配するものの、それを中盤で奪ってカウンターを仕掛ける岐阜、といった構図に。しかし、前半6分に#7村田透馬がGKまでボールを追いかけ

たためにクリアミスしたボールを#41吉濱遼平が奪い、無人のゴールにシュートしたけれどポストに跳ね返された時は、ちょっと嫌な気がしました。だけど前半11分、その#41吉濱が蹴ったFKを#28三ツ田啓希が豪快なヘッドで叩き込んで先制点！でホッとしました（笑）。その後、再びGKのミスを、今度は#10川西翔太が逃さずループシュートで追加点。後半も57分に再び#10川西が#22船津徹也のクロスをヘッドで押し込んで3点目、そして後半19分、ついに#7村田透馬がクロスで右足のダイレクトボレーで合わせて、祝・J初ゴール！（待ってたよ！）4点の大量得点の後、飲水タイム中に一挙3枚替えの安間監督から『あとは無失点で終わらせろ』の強烈なメッセージ（苦笑）。そのミッションを着実にこなして、4-0の快勝。いやー、大雨の中だったけれど、楽しい試合でした（笑）。というか、ここまで90分間、心が穏やかなまま安心して過ごすことのできた岐阜の試合は、僕ははじめてかもしれないです（苦笑）。

そして、首位（8倍角ぐらいにしたい）。まだまだ先は長いけれど、今季こそ、最後まで優勝争いをし続けて、そして勝ち抜いてほしいと思います。（ささたく）

●スコア上も内容も『快勝』だったんだけど、なんというか、どこもなく物足りない……そんな感想なのは、上から目線になっちゃうけど「この相手ならこれくらいは出来る」という、J2から降格したシーズンに岐阜の対戦相手が岐阜に抱いていたんじゃないだろうか……という感じ。特に、讃岐のGKは欧州サッカーで言うところの「Not His Day」というヤツだったんだろうな。

とにかくなにより、トーマのJ初ゴールには喜んだ。右からの低いクロスにキチンと合わせた。まったく文句はございません。FWの仕事の第一優先はゴールを決めることですよ。これで彼も吹っ切れることだろう。というか、吹っ切れてください（笑）。（吉田鑄造）

【第4節】鳥取0-1 岐阜

●試合が終わってから数日経つのに余韻が未だ冷めやらない。まさに、クラブ史上に残る完勝劇。シナリオ通り、と言っていい内容。しかも、勝ち点1で御の字、と思っていたのに、勝ち点3という、このうえない結果。おまけに、相手に一本しかシュートを撃たせなかったという事実。これを完勝と言わずしてどうする？

とはいえ、選手にとってはキツイ試合だったことは想像に難くない。突如として襲ってきた2週間もの自宅待機。そして、全体練習再開から4日間ほどの全体練習で迎えたこの試合。今回のような事態も想定はしていたと思うが、「身体が動かなければ、心と頭を動かせばいい。」といキャプテンの言葉を全員で体現してくれた。DAZNでの観戦だったが、キックオフ直後には「あ、やっぱり、後半勝負か。」と察しがつくような展開。まず、前半はセーフティに。省エネで後半勝負。あわよくば、若い二人で点取ってこい、みたいな。そして、後半開始からメンバーを入れ替え、たゆまず続けた精力的なプレーでもぎ取ったFKからの決勝点。最後まで鳥取の攻撃陣に仕事をさせなかったDF網。相手に得点される雰囲気は感じられなかった。若干、事故りそうな場面は見受けられたかもしれないけど。

ひとつ、ひとつが腑に落ちる、細部にいきわたるまで気持ちの通った素晴らしい試合だった。特に、前半のキムホと生地の走りっぷりには泣けた。アノ最前線からのチェイスがこの完勝劇に繋がった、と言っても過言ではない、とすら思える。自軍の現状を完璧に把握しての戦術、戦略。それを完璧に遂行してくれた選手たち。ウチの歴史の中で、ここまで筋の通った腑に落ちる戦術があって、それをやり切って、しかも勝ったのって初めてじゃないか？とってしまう。大袈裟だが、この試合に比べると、今までは全部アドリブか、個の力での勝利だったとすら思ってしまう。ただ、この勝利は出場した選手達だけによってもたらされたものでもないように思う。監督を始めとした現場やフロントのスタッフ全員の力の結集だね。

そして、こんなクラブ史上に残る試合を現地で共に戦ってくれた仲間たちに心からの感謝と敬意を。羨ましいです(笑) おめでとうございませう。それと、J初出場、おめでとう！>キム・ホ、そして、初スタメン、おめでとう！>生地。次の出番を楽しみにしています！（ぐん、）

●新型コロナ感染による、2週間のチーム活動休止を挟んでの代替開催。まずはチーム活動の再開及び代替開催に尽力された、鳥取を含む関係者の皆様に深い敬意と感謝を申し上げます。しかし、個別で練習はしていたとしても、2週間の中断からわずか5日間での実戦、しかも対戦相手の鳥取は前節から10日近く準備しており、不利は否めない。そんな状況でスタメンは前線の2人を#30キム・ホ(J初出場おめでとう！)と#25生地慶充に。僕は、当初はこの起用を選手のコンディションの問題なのか、それとも3日後の富山戦を見据えてのターンオーバーなのかなぐらいに思っていた。

そして、試合がはじまると、やはり予想通り(?)というか、岐阜の選手たちの動きが鈍い。ボールを奪ってからの前線へのロングボールがなかなか繋がらず、(セットプレーで惜しいのが1回あったけれど)攻撃に迫力がない。まるで開幕戦の焼き直しを見ているかのようで、上手くいかないなあ…と見ていたのだけれど、前半の飲水タイム以降もほとんど変化がない状況に『あれ、もしかして“上手くいかない”ことを織り込み済みで戦ってるのか?』という事実気がついた。こちらのコンディションは圧倒的に不利で試合動も戻っていない。そして鳥取は攻勢に仕掛けてくるのも見えている。ならば前半は若干リトリートして失点しないことだけを心がけ、中盤でのミス避けるためロングボールを多用。前線の2人には獵犬の如くボールを追ってもらって相手の体力を削りつつ、試合勘を少しでも取り戻す。そして後半に勝負をかけるのか

な……?などと考えていたら、ハーフタイムの安間監督のコメントが『前半はプラン通りだ』。スタッツでも鳥取のシュートはゼロ、そして後半冒頭から#7村田透馬と#10川西翔太を投入……マジか、いつからウチは90分間をトータルで考えて戦えるチームになったんだ(苦笑)。そして後半からは中盤から動いてボールが繋がるようになり、攻撃にも迫力が増す。これでプラン通りに得点できれば……と願いながらも、やはりフィニッシュの精度が少し足りない。しかし後半68分、#41吉濱遼平の蹴ったFKが相手選手の壁で逸れ、GKの手からも逸れて先制点!!その後追加点は奪えなかったものの、徹底した守備への意識で鳥取にも決定機を与えない。結局、鳥取をシュート1本(撃たれたっけ?)に抑えてのウノゼロ勝利。再開初戦に非常に価値のある勝ち点3を手にすることができた。

いやー、今回の試合以上にウチが『90分間の戦略プランを事前に立案して確実に遂行した試合』を見たことがあったかな?(苦笑)と思うぐらい、実に“強い勝ち方”でした。調子が悪い時でも勝ち点を稼ぐ、あるいは勝つのは、強いチームの証(必要条件)だと思う。選手たちがそうした自信と確信を深めて、今後も結果を出してくれるような…そんな印象的な試合でした。ちなみに、#41吉濱選手の勝利インタビューでの『(FKが入ったのは)日頃の行いがよかった』は、個人的に今季の“FC岐阜流行語大賞”にノミネートです(笑)。#4甲斐主将の『身体が動かなければ心と頭を動かせばいい』といい、記憶に残る(であろう)試合には、記憶に残る名言が生まれるなあ…と感慨にふけることのできる、試合内容と結果でした。でも、まだまだこれから。これ以上となる試合を、もっと見たいです!(ささたく)

●DAZNで見ていたのだが、とにかく『完勝』だった。『快勝』ではなく『完勝』。近年稀に視る「シビれた」勝利。こちらはコロナウイルス感染対策で約2週間の活動停止明けで、再起動して数日。圧倒的ハンディキャップを背負った中で、指揮官は「欲しがりません、勝つ以外は」という試合を計画し、選手はそれを完璧にやってのけた。前半、一見すると鳥取のワンサイドに見えたが、ぼくは「これは『岐阜がコントロールしている』鳥取のワンサイドだ」と思っていた。安間監督のハーフタイムのコメントが「プラン通りだ」と知った時、ぼくの脳裏に真っ先に浮かんだのは、俯き加減で机についた両手を組んで眼鏡を光らせる碓ゲンドウ(『エヴァンゲリオン』)の姿だった(笑)。

後半開始から川西と村田を投入し試合の位相を反転させると吉濱のFKは、壁に当たってから「日頃の行い」(本人談)でGKの届かないところに転がって先制点&決勝点。もちろん「日頃の行い」のおかげもある(笑)んだらうけど、プロ野球解説者の表現を借りると「気迫で壁に当たってコースが変わった」のかな、とも思った(笑)。

結果、鳥取はあれだけボールを支配してシュート1本。鳥取は、「負けた気がしない」……?いやいや、「完敗した気はしない」のではないかな。岐阜はコンディションが悪い中で「出来ることしかやらなくていいから出来ることはしっかりやる」を90分通して実行した。昔のアニメ映画のコピーを借りれば『ゲーム・マネジメントとは、こういうことさ』とでもなるろうか。本当に、こんなにも、愛するチームを「誇らしい」と思ったことは、これまでにない。そんな『完勝』だった。(吉田铸造)

【第6節】富山 1-0 岐阜

●う～ん、負けちゃったね。5戦目にして今季初めての敗戦。内容的にはこの結果もやむなし、かな。シュートが2本ではねえ。なんだか、前節の対戦相手を見ているようなスタッツだった。

とはいえ、別に後に引くような敗戦ではないでしょう、と。ただ、単に、コンディションが整わなかったということじゃないかな？やはり、鳥取戦からとぼ返り（後泊してなかったですね？）での中三日はタイトすぎる。しかも、ただの中三日ではなく、長期間の待機明けの2試合目というのが響いたんだろうと。ある意味、前節の鳥取戦はいろんな感情がうごめく中で余儀なくされた待機明け。そりゃあ、ふだん以上にアドレナリンが出ちゃうだろう、と。知らず知らずのうちにオーバーワークしていた可能性もある。身体だけじゃなく精神的にも。待ち焦がれてた試合だったがゆえに、だ。再開が認められたという事実と、それに対する心情は選手にしかわからない。それは、鳥取戦に帯同しなかった選手も同じだろう。

あくまで、個人的な見解だけど、以上のことから、今回の敗戦については特に引きずるものではなかった。もちろん、試合数が少なくなった中での一敗の重みとか、序盤戦とはいえ、上位対決、それも最後まで昇格枠を争うライバルとなりそうな富山に後れを取った事実とかを考えると全くの無傷ってワケにはいかないが、それはこれから十分取り返せると思える。この試合にしても、失点はPKによる一点だけ。それも、どこからどうみても真っ当な（笑）PKならしかたない。ボールに向かって手が伸びたPKなんて久しぶりに見たような気がする（爆笑）それをやっちゃったのが、ホンタクさんなら、観念するしかないわけで。

要するに、コンディションが整わない中でも守備陣は最後までやれてたということ。あ、若干、桐畑サンに救われてた場面もあったか。「残念、そこは桐畑だ。」みたいなポジショニングに。ホント、サスガの安定感だわ>桐畑サン

まあ、ね。そうはいつでも、ね。せつかくの好天の下、ホームを圧倒する勢いで駆けつけたたっさんの仲間たちが、満を持して登場した『岐阜の太陽』と共に喜びを分かち合える情景が見たかったなあ。それにしても、あの一発ダンマクにはシビレた！やっぱり、ウチのゴール裏はわかってるな、と。サイコーだったぜ！（ぐん、）

●前節・アウェイ鳥取戦から中3日でのアウェイ・富山戦。疲労でさらにコンディションが落ちていることが予想される岐阜に対して、2週間の準備期間があった富山との上位対決。前節よりもさらに圧倒的不利（苦笑）な状況下ではあるものの、それでも勝利を望むFC岐阜サポーターが500人近く駆けつけた。まあ、遠征に慣れてくると200kmは『近い』ですからね（苦笑）。

さて、風が強くて日射しが陰ると急に冷え込む天候の中、前半は風下に立つ岐阜の選手たちは、やはり動きの鈍さが否めない。一步先に足が届くかで優劣が決まる局面で後手に回ってしまう。しかしそれでも、集中した守備ブロックで富山に決定機は与えない。しかし前半34分、相手がPA外から撃ったシュートをPA内でブロックした#14 本田拓也の手にボールが当たってしまう。このPKを決められ、今季初の先制点を許す岐阜。しかしこの1失点以外は、その後も堅実な守備で追加点を与えずに前半を折り返す。後半になって風上に立った岐阜だが、やはり運動量の不足からボールが繋がらず、またゴール中央を固める富山の守備を崩すことがなかなかできない。そんな中、今季はじめてベンチに名前が挙がっていた#42 柏木陽介が岐阜デビュー！ただ、彼の持ち味がピッチで活きたかといえば、それは疑問（苦笑）。試合後に本人が語っているとおり、もっとできて当然のレベルの選手のハズ。もっとチームに馴染んで、はやく本来の輝きを發揮してほしいものです。結局、後半も決定機をつくることはできず、しかし

富山にもシュートは撃たれつつも、#20 GK 桐畑和繁の好セーブにも助けられて決定機は与えないまま、試合は終了。今季初の敗戦に、もちろん悔しい思いはあったけれど、圧倒的に不利な条件の中でも、岐阜の選手たちはやりきってくれたと思う。失点はハンドのPK 1点のみで、守備は崩壊しなかった。#42 柏木も試せたし、#8 中島賢星も戻ってきた。#18 服部康平のポストプレーも有効そうだと分かった。ポジティブな要素はいくつも……それでも、勝ち点1持って帰れたら、もつとよかったなあ……（苦笑）。

不運も重なって負けたことは仕方がない。大事なのは、気持ちを切り替えて次の試合、つまり今節で勝つことだ。5月からの快進撃のため、必ずやホーム連勝を！（ささたく）